

## JR 島本駅西地区まちづくり委員会 各回の議題の提案

JR 島本駅西地区まちづくり委員会委員各位

2020年10月7日(水)

JR 島本駅西地区まちづくり委員会公募委員

五江 潤 弘臣

永山 智美

### 記

今後の会議を円滑に進めていただく為、以下の通りまちづくり委員会の各回の議題を提案致します。

#### ■第3回 10月7日(水) 15:30～

##### ・15:30～16:00 次回以降の議題の提案

1. 議案の説明と回のテーマについて同意をいただく。それぞれのテーマは優先度の高いものから設定する。また、必要に応じて参考人を招致する。
2. 後半のジオラマを使った景観については議論のみとし、具体的提言は6回目後半にまわす。
3. 各テーマの提言案は公募委員で作成し、町に提出。それを元に議論。会議終了後に事務局が各委員の発言を入れ込んで修正し、次回の前半で発表。

##### ・16:00～ 景観についての議論、他

ジオラマを使った景観についての議論。歴史的風景、小学校からの視点、その他…

##### ・その他

津梅原水路付替え工事について、まちづくり委員会と議会での事務局の答弁の齟齬を問う。

#### ■第4回前 10月中旬予定

桜井地区の歴史的価値と保存の提言案を公募委員より配布

#### ■第4回 10月下旬予定 桜井地区の歴史的価値と保存

専門家からのレクチャー。遺跡を保存する為に国の補助金を利用する方法のご提案。

#### ■第5回前 10月下旬予定

生物多様性の確保（津梅原水路の在り方を含む）の公募委員の提言案の配布

#### ■第5回 11月上旬予定

前半 桜井地区の歴史的価値と保存の提言についての確認

後半 生物多様性の確保（津梅原水路の在り方を含む）

専門家からのレクチャー。会議終了後「桜井地区の歴史的価値と保存」の提言（正式版）を事務局と組合に提出。

■第6回前

景観の公募委員の提言案の配布（内容は第3回後半の議論を採り入れる）

■第6回 11月下旬予定

前半 生物多様性の確保の提言についての確認

後半 景観についての提言

第6回の会議終了後「生物多様性の確保」の提言（正式版）を町と組合に提出。

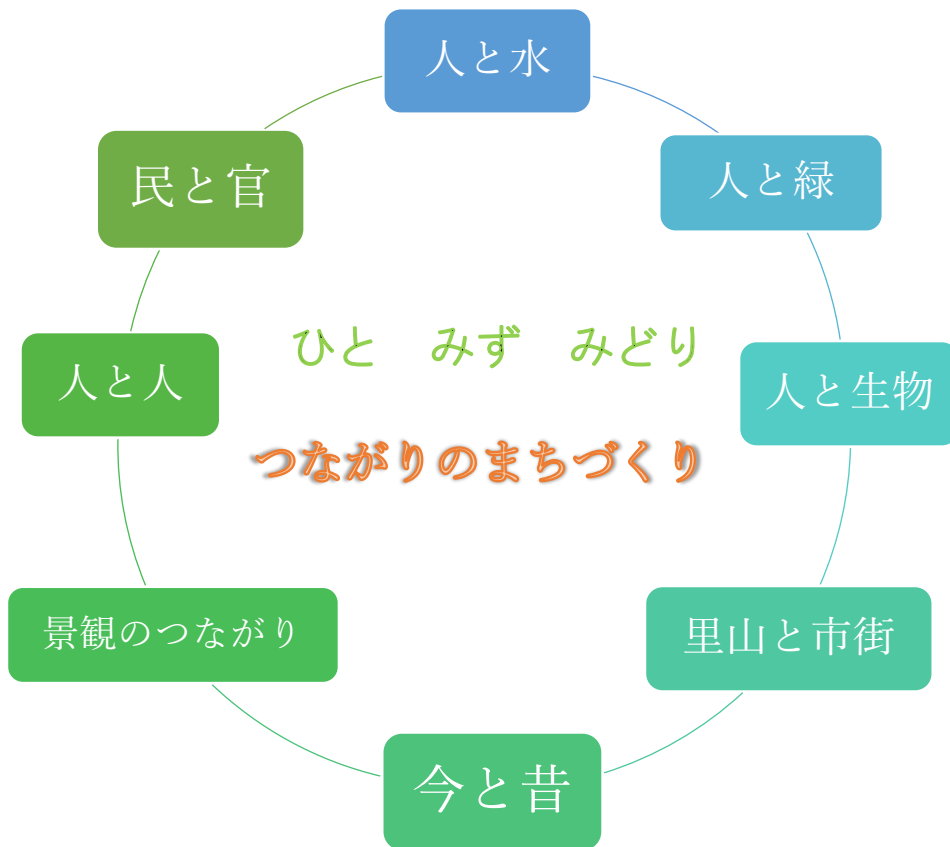
■第7回 12月下旬予定

景観の提言についての確認

会議終了後「景観」の提言（正式版）を町と組合に提出。

以上

## ひと・みず・みどりのつながり ～山すそにひろがる つながり（循環）のまちづくり～



- ・ 人と水（水資源）のつながり
  - 雨水を自然の循環の中から切り取らず、地下浸透・涵養へ導くまちづくり
  - 開渠により巡らされた水路が町の顔となるようなまちづくり
- ・ 人と緑のつながり
  - 北摂の山並みを背景に、公共空間（公園：農業公園）の緑、庭木の緑とつながって人々の暮らしが、多くの緑の中に溶け込むようなまちづくり。
- ・ 人と生き物のつながり
  - 事業区域内に生息生物（ヒメボタルなど）を排除するのではなく、人と生き物とがつながりをもてることを柱とするまちづくり。
  - 農住エリアや農業公園、開渠（水路：ビオトープ）の配置をメインに、事業計画を再構築しなおすことにより、そこに生きてきた生物と移住する人間との共存を模索する
- ・ 里山と市街のつながり
  - 市街地とそれ以外といった、隔たりを設ける従来の都市開発から農住エリアの今のままの

## 農地の姿（里山）がそのまま駅前（市街）とが併存、融合するまちづくり

### ・今と昔、ときのつながり

→島本町の歴史を今に伝える“洲浜”をそのまま、里山公園として残すことで、教育的価値・文化的価値を後の世代に引き継ぐ、時間的なつながりをもたせることを町作りの骨組みとする  
今回みつかった池跡の遺構は歴史的に重要な価値があり、まちの大きな魅力につながる。

### ・景観のつながり

→住民の憩いの場である、島本の山並みの連なりを遮らない、洲浜から男山を見渡す奥行のある景観を遮るような建物の建設を控える、そのことにより生まれる景観を町の玄関口に配置する。

### ・人と人とのつながり

→新たに町に暮らすことになる住民と今まで暮らしてきた住民とが、つながりを感じ合えるまちづくり

公共空間（里山：農住エリア）（農業公園）（ビオトープ）が人々の憩いの場をつくりそこに集う人と人とのつながりをもてるように導くまちづくり。

→農業公園として農地を残すことで、公園と農地に期待される、コミュニティ機能、災害時の避難場所、食育などの教育の場としての機能など、を地域の活性化・交流の場として機能させる。

### ・住民と行政のつながり

→賑わいづくりなど、住民活躍の場を提供し、行政が積極的に後押しをする、町の未来を見据えたあたらしい「つながり」方の実践。

→官民協働、その必要性が高まっているが、いまだ町内にその土台ができていない。西側の新しまちづくりにその種をまき、そだてる。